

Toilet Navigation in MUSICDAY2007



About Toilet Navigation

2007年5月4日、NPO法人音楽文化振興委員会が東京都立代々木公園中央広場にて開催した緑と環境のコンサート(野外音楽イベント)に参画し、コンサート会場のトイレの設営とともに、「トイレナビゲーション」活動を有志メンバーで実施しました。

トイレナビゲーションとは、できるだけトイレが混雑しないようにトイレを配置すること、トイレ待ちの人を空きトイレに誘導すること、トイレをとおしてメッセージを発信することです。会場では、トイレを快適に利用してもらうためのメンテナンスの実施、Kids 優先トイレやオムツ替えのための個室の提供などを行い、子どもやお年寄り、車イスの人など、みんなが安心してトイレを利用できるようにしました。また、ライブ会場とその周辺のトイレの案内を行うWebサイトの設置も行いました。

さらに、災害時と野外イベントにおけるトイレ環境が似ていることから、今回は「災害時のトイレの大切さ」に焦点をあてた使用展示も行いました。



トイレナビゲーションメンバー集合写真



Toilet Navigation in MUSIC DAY 2007

主催: 日本トイレ研究所

協賛: あいおい損害保険株式会社、株式会社しんあいコーポレーション、株式会社総合サービス、日本セイフティー株式会社

協力: エクセルトライ株式会社、コンビウズ株式会社、NPO 法人 都市計画・建築関連 OV の会 (五十音順)

参考: About Musicday2007

MUSIC DAY の元祖はフランスで、一年に一度、夏至の日に国中で音楽を楽しむ日。日本でそんな「音楽の日」があったらいいな、と始めたのが MUSIC DAY。1998 年から回を重ねた記念すべき 10 年目の MUSIC DAY は地球環境へのやさしさをテーマにした公園でのアコースティックライブです。

期日: 2007 年 5 月 4 日 (祝)

主催: 特定非営利活動法人音楽文化振興委員会

共催: TOKYO ソーラーシティプロジェクト

後援: 東京都環境局 / 渋谷区

応援: 環境省

会場: 東京都立代々木公園中央広場

出演: 宮沢和史 (THEBOOM)、浜崎貴司、新垣勉ほか



Layout& Navigation

今回の会場には、来場者のための仮設トイレを10棟、バリアフリートイレを1棟、災害用トイレを2棟、Kids優先トイレを1棟、さらに、オムツ替えスペースを用意しました。また、混雑度合い等を勘案し、一般の仮設トイレは男性用3棟、女性用7棟にしました。

まずは、キレイに並んでもらえるようにトイレの待ち行列の動線をつくりました。次にトイレの待ち時間を演出するため、トイレメッセージ(シール)と途上国のトイレ支援パネルを設置しました(P7参照)。そして、トイレナビゲーションの一番大切な役目として、トイレを待っている人を空きトイレに笑顔で誘導「こちらご利用になれますよ!()' 0')!!」。それから、時間によって変動する混雑状況に応じ、男女の区分けを変更して、よりスムーズにご利用いただけるよう配慮しました。

今回の会場では、各時間帯とも待ち行列は最大でも10人程度、待ち時間は多くても約3分という結果になりました。



Design 遠藤あおい 山田花菜

Maintenance

トイレをキレイに快適にご利用いただくために、利用者の少ない時間帯に簡単なお掃除をしたり、ペーパーの補充をしたり、ちょっとしたメンテナンスを心がけました。

また、各トイレ室内には脱臭・芳香剤の設置や簡易的な掃除道具を設置し、快適性の保持に配慮しました。

これらの効果はとても高く、一般的に仮設トイレで懸念される臭気の問題や汚れの問題を解消できたと思います。また、普段使い慣れない仮設トイレでは、ポケットのものを落としてしまう方が時々…。それを救出することもわたしたちのミッションです。今回の会場でもちょっとありました。(みなさん気を付けましょう(〇))

災害対応トイレの使用展示

今回、日本トイレ研究所では、災害時という視点からトイレの大切さを伝えていくために、普通の仮設トイレとは別に2種類のトイレを用意しました。

1 つ目は、会場内のトイレとして設置した「日本セイフティー㈱の“ラップボン”」(右上写真)。これは一般の仮設トイレと同様に設置したものと、瞬間個室(次章参照)内に設置し、Kids 専用トイレ(右下写真)として利用したものの2つのパターンを用意しました。このトイレは、排泄物をフィルムでラッピングして閉じ込め、オムツと同様の扱いで処分できることが特徴です。そのため、比較的清潔感が高く、臭いもラップの中に閉じ込めてしまうので、ほとんどしません。また、洋式であるため、和式に慣れていない小さな子どもにも安心して利用できるため、リピーターができるほど好評でした。

このトイレのもう一つの大きな特徴は、水を使わないことです。そのため、介護(病室内利用)や災害時の上下水道復旧までの期間などに活躍できます。先般発生した能登半島地震においては、同社がこの製品を持って現地支援に入り、被災者の方々に利用いただいています。



2 つ目は、(株)総合サービスの“テノヒラトイレ”です。携帯電話によるアンケートのノベルティグッズとして、来場者にプレゼントしました。この商品も、水を使わないで排泄物を処理するため、災害時やキャンプ、山岳地などで活躍します。

また、断水時などトイレが利用できない際に、洋式のトイレにかぶせて利用することもできるため、前出のトイレと同様、介護や災害時に非常に役に立ちます。

商品名のテノヒラトイレというネーミング、そしてパッケージデザインは、従来のトイレのイメージを一新し、普段から携行することで、どこで遭遇するかかわらない災害に対しても備えることができるよう、シンプルでカワイイデザインとなっています。



多目的パーソナルスペース

災害時のトイレとして紹介した二つのトイレですが、トイレを使うとなるとやはり必要となるのが個室空間です。

そこで活躍するのが(株)しんあいコーポレーションの“瞬間個室”とあいおい損害保険(株)提供のエアロシェルターです。“瞬間個室”は、ダンボールを主な素材として用いているため、折りたたんで収納することができます。災害時の避難場所での利用はもちろんのこと、今回のようなイベント時においても大いに活躍します。

そして、屋外スペースでこの個室の存在を支える空間として、エアロシェルターを設置しました。この瞬間個室もエアロシェルターも、非常に短時間で設営することが可能です。

今回は、Kids優先トイレ、オムツ替えスペース、その他多目的スペースとして合計で3棟の瞬間個室を設置しました。トイレは前出のラップポンを利用し、オムツ替え台とダストボックスはコンビウイズ(株)より提供いただきました。どちらも、小さい子どもと一緒に来場された方に好評で、大変喜んで利用してもらうことができました。

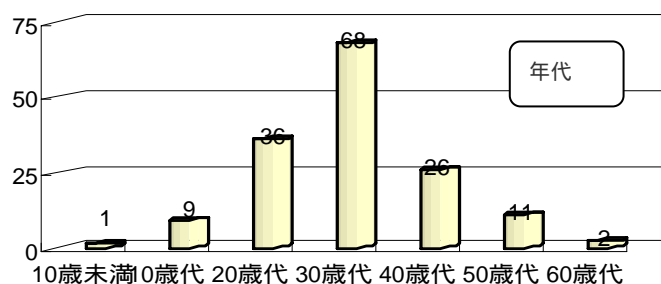
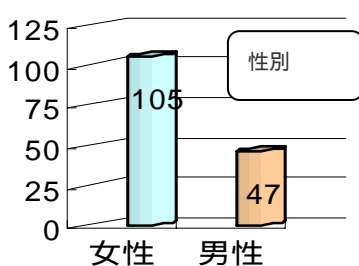


災害とトイレにまつわるアンケート

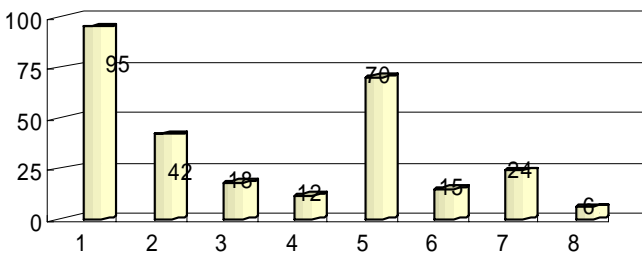
来場者に災害とトイレに関するアンケートを実施しました。アンケート結果は以下のとおりです。回答者は152名ですが、複数回答の設問については、各値の合計が100%を超えています。

このアンケートの実施に際しては、しんあいコーポレーション(株)より、防災グッズをノベルティとしてご提供いただきました。

回答者層は以下のとおり。



Q.災害時、避難（生活）するならどこがいいですか



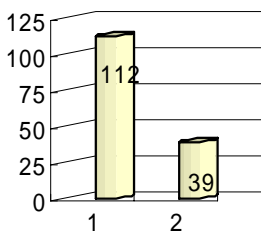
- 学校・公共施設
- 地域の広場
- 自分の会社、オフィスビル
- 地域にある企業
- ホテル
- ホール
- デパート、ショッピングセンター その他

[コメント]

及び の回答の多さは、一般的な避難場所としてのイメージの高さが現れているといえる。また、2番目に高い は、避難生活の場所としての可能性を期待していることがわかる。

と は、一般的にもイメージは高いものではなく、受け入れ態勢などの情報もそれほど一般化しているもの

Q.地震が起きると水洗トイレが使えなくなるって知っていましたか

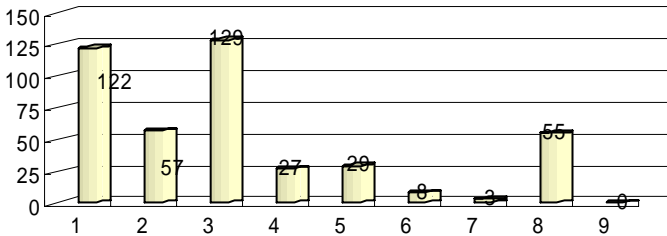


- 知っていた
- 知らなかった

[コメント]

今回の展示内容の影響も受けている結果として見る必要があるが、災害時にトイレが使えなくなることについて、その認識されていることが伺える。

Q.災害時に避難所（生活）で重要視するものは

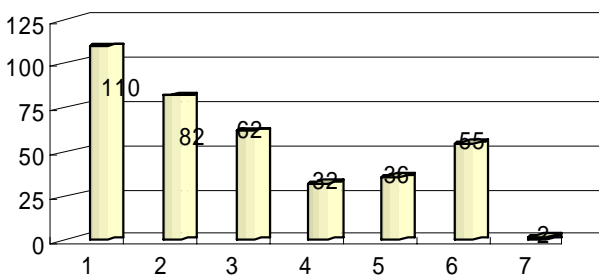


- 食料（飲食物）
- 寝床
- トイレ
- 風呂・シャワー
- プライバシー空間
- 耐震性
- バリアフリー
- 寒暖対策
- その他

[コメント]

と についてはやはり直感的に必要となる行為であるため高くなっている。また、トイレについての認識が高いことは、今回のブース展開としてうれしい結果である。

Q.今後、いろいろなタイプの防災訓練を提案していきたいと思います。どんなイベントとセットなら参加してみたいですか



- 屋外での音楽イベント
- キャンプなどのアウトドアイベント
- おいしい非常食の試食会
- わが家の耐震セミナー
- 地震・火災保険セミナー
- 山登りなどの自然体験ツアー
- その他

[コメント]

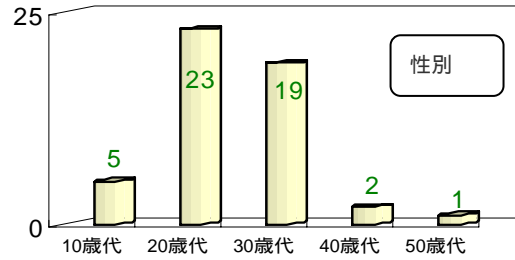
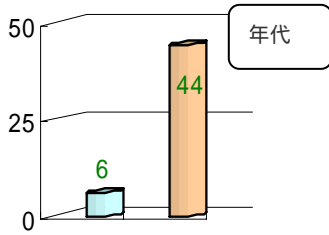
、 の回答が特に多く、ストレートに楽しめるイベントであること、参加意識を持てるイベントの中でもっとも開催することが期待される。

会場までのトイレ・携帯アンケート

来場者に、携帯電話を利用したアンケート(QRコードでアンケートサイトを閲覧し回答)を実施しました。アンケート結果は以下のとおりです。

このアンケートの実施に際しては、総合サービス(株)より、テノヒラトイレをノベルティとしてご提供いただきました。

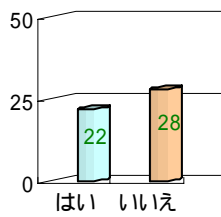
回答者層は以下のとおり。



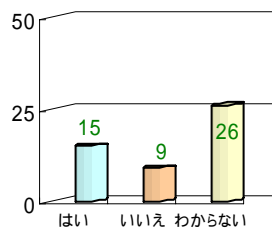
Q.会場に来るまでにトイレを利用しま

Q.そのトイレは良かったですか？

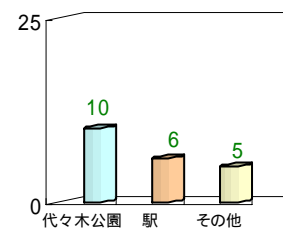
Q.それはどこのトイレでした



約半数が会場に来るまでに
トイレを利用している



「はい」と「わからない」が大半を
占めており、トイレの良し悪しを
気にすることなく利用できている
ことがわかる。ただし、2割程度は、
「いいえ」との回答があることも実
態である。



トイレの利用は、目的地内が約
半数となっている。また、4分の1
が駅トイレを利用している。

Display & Event

災害時、トイレどうする？災害時に避難場所ともなっている代々木公園。エコとともに災害についても考えてみよう！ということで、災害時対応トイレやその大切さを伝えるためのパネル・映像を展示しました。また、2008年は国際衛生年、世界にはトイレのない人は26億人もいて、毎日約4500人の子どもたちがコレラ、腸チフス、下痢等の汚水に関連した病気で死亡しています。各国でトイレ支援を行う人たちの活動やトイレの実態を紹介する活動の紹介も行いました。

トイレはがまんするものじゃないんだよ！というメッセージを、ドームテント内でのおえかきコーナーで実施。たくさんのお子さんたちと、ステキな絵ができました！



かよちゃん(トイレアーティスト)と一緒にトイレアート



日本トイレ研究所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-11-7 第二文成ビル3F

03-3580-7487 fax03-3580-7176 www.toilet.or.jp/ c2007.05 日本トイレ研究所